



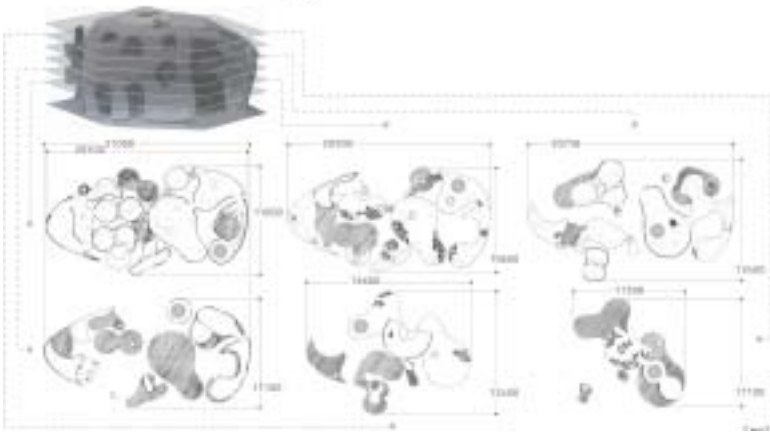
# EMITTER

ノンバーバルコミュニケーションの発認装置

利倉 健太 (としくら けんた)  
東京電機大学 情報環境学部 情報環境デザイン学科



ノンバーバルコミュニケーション、直訳すると“非言語伝達”という。人間間コミュニケーションは、諸説あるがこの非言語伝達に80~93%も依存しているといわれている。このように人間社会成立においてノンバーバルコミュニケーションは欠かすことのできない要素である。しかしこのような重要な要素が今日では大別して“機能”や“美”の上で存在している。私は、ノンバーバルコミュニケーション、これのみを意図的に発生 (EMIT) させ、また非言語における自己性質の認識を可能にさせる装置を目指した。今回のデザインでは“シキリ”“距離感”“レベル”という三要素により意図的に空間に非言語的能力を持たせ、これにより空間が非言語伝達のみを調整・強調し発生させることを可能とした。



**【講評】** 何よりも作者の「街と子供」に対するまなごしの優しさを感じる。古い町並みが色濃く残る谷中という地域の特つ空間的魅力を生かしつつ、そこを「まちなかロッカー」「かさこ路地」「だんだんグラウンド」と言う要素を入れ込み、学童保育の場にするという提案です。これは、商店街が寂れ始めている他の地域への多くの示唆に富んでいます。特に、「まちなかロッカー」は私の住んでいる房総の田舎町のような処ではすぐにで

も実現させたい提案です。この提案のすばらしさは、「自ら肌で感じ、素直に反応した提案」である事です。建築を考えると、実はこのような小さな空間がきちっと意識されていないと大きなすてきな空間が生まれるはずがありません。自らの感性を信じて自分を磨いて下さい。 (審査員：沼田正雄)